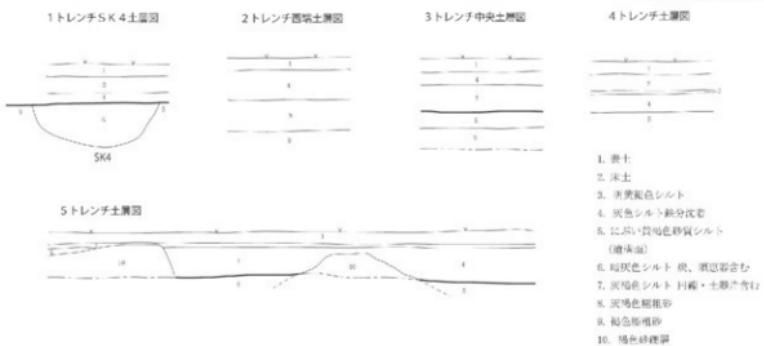
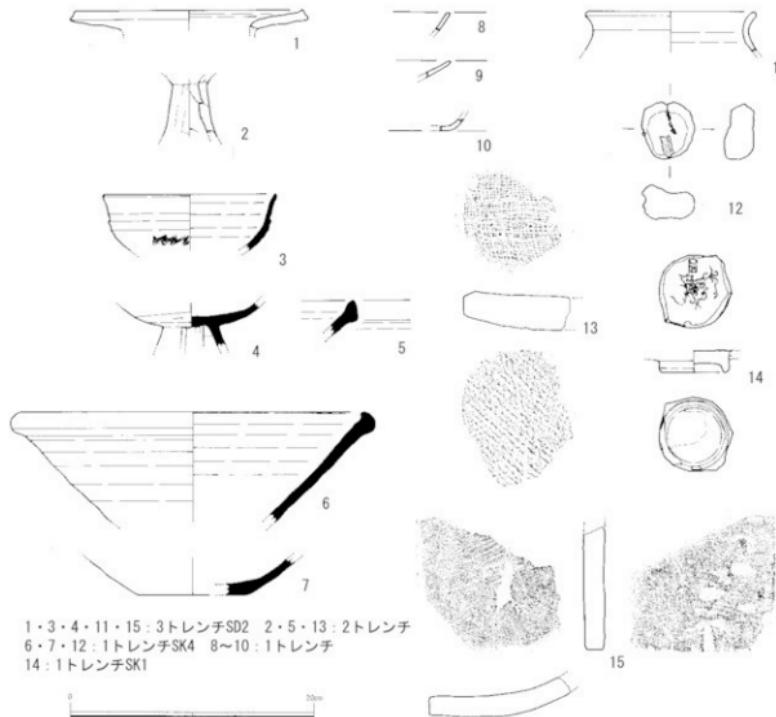


高松市内遺跡発掘調査事業



第33図 試掘トレンチ断面図 ($S = 1/40$)



第34図 出土遺物実測図 ($S = 1/4$)

第2章 平成20年度史跡天然記念物屋島基礎調査事業（屋嶋城跡）

1 調査地 高松市屋島西町（北嶺山上）

2 調査期間 平成20年9月1日

～平成20年12月17日

3 調査担当者 山元敏裕、中村茂央

4 調査の概要

（1）調査の目的と方法

屋嶋城跡の確認調査については、これまで外郭線城壁遺構が残存する南嶺を中心に進められ多くの成果をあげている。一方、北嶺については人工構造物が認められないため、確認調査は行われてこなかった。北嶺の地勢については、南嶺とほぼ同じ標高で、山頂の縁辺部が断崖となるという特徴的な地形をもつ。さらに北嶺内部の確認調査において7世紀後半代の須恵器を1点のみではあるが確認しており、何らかの形で利用されている可能性が考えられる。以上の状況を踏まえるとともに、屋嶋城跡調査整備検討委員会からも北嶺の調査をすべきとの指摘を受けたため、確認調査を実施したものである。トレントの設定にあたっては、これまでの南嶺における城壁確認調査の成果を取り入れ、防御正面にあたる西側斜面の断崖上部の4箇所について設定し、確認調査に支障のある樹木を伐採した後、人力掘削により遺構・遺物の確認作業を実施した。掘削にあたっては、一度に複数の調査箇所が存在しないように配慮し、1つのトレント調査が終了した後に次のトレント調査に着手するように配慮した。

（2）確認調査結果

【層序】

各トレントで色調・土質に多少の差が認められるが、概ね同様な層序を呈する。第1層は表土、第2層は基盤層である凝灰岩が風化したものが堆積したもので色調等が基盤層に極めて酷似するも、基盤層と比較して締りが無く、場所によっては土器を包含する。第3層は基盤層になる凝灰岩風化土である。第2層と酷似するが、土質は均質で固く締まっており、土器を包含しない。

【遺構】

第3トレントの西半でピットを2基確認したのみである。規模はSP1が直径25cm、SP2が直径30cmであり、深さはそれぞれ6cm・2cmと非常に浅い。土層埋土はいずれも灰褐色粘質シルトである。

【遺物】

第4トレントを除く各トレントから出土しているが、全般に出土量は少なく、出土遺物の大半は第1トレントからのものである。各トレントの遺物出土状況は第1トレントでは南西部の第2層を中心とし色調・胎土から弥生土器甕の個体と考えられる頸部・底部片がまとまって、第2トレントでも第2層から弥生土器甕



第35図 調査地位置図 (S=1/40,000)

底部片が、第3トレンチでは前述のSP2から土師器片がそれぞれ出土した。

5まとめ

今回の確認調査の主目的であった北嶺における屋島城跡の外郭線城壁および城の存在の手がかりとなる7世紀後半代に属する遺物は確認できなかった。北嶺山上部の面積に対して、これまで実施してきた確認調査の実施面積は多く見積もっても1%程度であり、これの調査成果のみで、北嶺における屋島城跡との関係を明らかにできるわけではない。加えて山上縁辺部が断崖であることから、作業の安全を考え、多少、内側へ控えた位置での確認調査となつたことによる遺構・遺物検出の確率の低下や、築城から1300年余りが経過したことによる縁辺部の断崖崩落による遺構の消滅等も想定される。そのような条件下ではあるが、関係する遺構・遺物が認められなかつたのは事実である。同様な地理的環境にありながら局所的に外郭線遺構を配置する南嶺とは明らかに状況は異なつており、屋島城に関しては、北嶺においてはほとんど手が加わっていないことを裏付けるものと考えたい。

次に今回の確認調査の主目的からは外

れるものの、第4トレンチを除く各トレンチから少數ながら遺構・遺物が出土している。これまでに実施した北嶺における確認調査の成果と照らし合わせると第1・第2トレンチで確認した弥生土器の甕は、形態等の特徴から弥生時代後期後半のものであると考えられる。湿地部分に隣接して確認調査を実施した平成11年度第2調査地点第1トレンチから出土した弥生土器壺口縁部も同様な時期の遺物である。当該地点は今回の確認調査の第2トレンチが最も近接する。なお、最も遺物の出土をみた第1トレンチは第2トレンチの北約250mに設定している。両トレンチ間の状況は不明であるが、現在得られている情報からは、北嶺山上の北西部一帯に弥生時代後期後半の活動痕跡が広がっているものと推定できる。

南嶺において確認した弥生土器は弥生時代中期中葉のものであったことから、南嶺とは活動時期に差が認められ、弥生時代中期と後期では活動の場所が異なるようである。

ピット2基と土師器片を確認した第3トレンチについては、調査を実施した箇所が千間堂跡としている仏堂や柱穴と考えられるピットを多く検出した調査区に北接する。土器片は小片であり形態等が不明であるが、胎土には大きな粒の石英を多量に含むことから、古代から中世の煮沸具の特徴を備えている。これらの状況から第3トレンチ付近は千間堂跡の縁辺部にあたるものと想定される。

以上のとおり、今回の確認調査で得られた遺構・遺物は、量的に少ないが、これまで実施してきた北嶺における確認調査の成果を追認する結果となった。



第36図 北嶺確認調査位置図 (S = 1/5,000)



写真13 第1トレンチ完掘状況（東から）



写真14 第1トレンチ完掘状況（北から）



写真15 第2トレンチ完掘状況（東から）

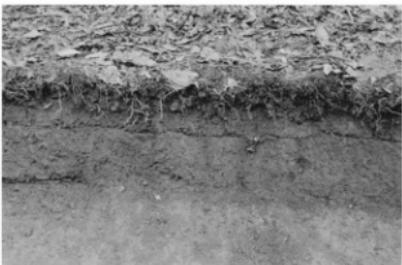


写真16 第2トレンチ土層堆積状況



写真17 第3トレンチ完掘状況（東から）



写真18 第3トレンチ完掘状況（西から）



写真19 第4トレンチ完掘状況（東から）



写真20 第4トレンチ完掘状況（西から）

報告書抄録

ふりがな	たかまつしないいせきはくつちょうさがいほう							
書名	高松市内遺跡発掘調査概報							
副書名	平成21年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書							
シリーズ番号	第128集							
編著者名	山元敏裕・大嶋和則・渡邊誠・高上拓・小川賢（高松市教育委員会） 大久保徹也（徳島文理大学）							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL. 087(839)2660							
発行年月日	平成22年3月31日							
所収調査	調査地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
野上・百相坂遺跡	高松市 佐生町	37201		34° 16' 25"	134° 2' 3"	H21.1.20 ～1.23	367m ²	大型店舗建設
三谷町中原地区	高松市 三谷町	37201		34° 16' 40"	134° 4' 38"	H21.7.27	38m ²	礼拝堂施設建設
押師廃寺	高松市 上林町	37201		34° 17' 27"	134° 3' 52"	H21.7.9 ～7.10	50m ²	営業所建設
空港跡地遺跡 中林地区	高松市 林町	37201		34° 17' 35"	134° 4' 19"	H21.8.5	76m ²	倉庫・事務所建設
林下所地区	高松市 林町	37201		34° 18' 27"	134° 4' 45"	H21.8.7	12m ²	宅地造成
船岡山古墳 第2・3次 調査	高松市 香川町 大野・ 浅野	37201		34° 14' 58"	134° 01' 53"	H21.2.23 ～3.6 H21.8.17 ～9.4	15m ² 27m ²	内容確認
史跡讃岐国分尼寺跡 第10次調査	高松市 国分寺町新居	37201		34° 18' 37"	133° 57' 45"	H21.9.29	7m ²	浄化槽設置
高松城跡 中堀南岸石垣	高松市 玉藻町	37201		34° 20' 55"	134° 3' 6"	H21.10.16	3m ²	石垣復旧工事
萩前・一本木 遺跡	高松市 佐生町	37201		34° 16' 59"	134° 2' 27"	H21.10.27 ～11.2	165m ²	高松市新病院建設
空港跡地遺跡 畠地区	高松市 上林町	37201		34° 17' 30"	134° 3' 43"	H21.11.20	110m ²	大型店舗建設
史跡天然記念物屋島 北嶺山上	高松市 屋島西町	37201		34° 22' 19"	134° 5' 48"	H20.9.1 ～12.17	164m ²	内容確認

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野上・百相坂遺跡	墓域	中世	集石遺構	土師質土器	
拝師庵寺	寺院	弥生時代、古代	溝、柱穴	弥生土器、須恵器	
空港跡地遺跡 中林地区	集落	弥生時代	溝	弥生土器	
船岡山古墳 第2・3次調査	古墳	古墳時代	積石による墳丘	埴輪	
史跡讃岐国分尼寺跡 第10次調査	寺院	古代～近世	なし	瓦	
高松城跡 中堀南岸石垣	城館	近世	中堀石垣	陶磁器	
萩前・一本木遺跡	集落	古代	土坑、柱穴	土師器、須恵器	
空港跡地遺跡 烟地区	集落	弥生時代～中世	土坑、柱穴、溝	弥生土器、須恵器、陶磁器、瓦	
史跡天然記念物屋島 北嶺山上	城館	古代	柱穴	弥生土器、土師器	

高松市内遺跡発掘調査概報

－平成21年度国庫補助事業－

平成22年3月31日発行

編集・発行 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号

印刷 有限会社 河端商会